



小田 新紀 議員  
(拓政会)

**問**

幕別町は、オリンピックを含むトップアスリートが複数種目にわたり輩出されており、現役選手としての彼らを応援することを中心とした事業が多く組み込まれてきた。しかし、オリンピック選手の多くが現役引退を発表された今、まさに「オリンピックのまち」として、どのようなまちづくりを目指して推進していくのか、真価が問われるところである。

一昨年度までの3年間、国の補助金を活用した「アスリートと創るオリンピックの町創生事業」においては、スポーツを軸とした「町の活性化」といった、まさに地方創生の目的があった。

また、昨年度に策定された「第1期スポーツ推進計画」においても「オリンピックの町・幕別町」を広げようという項目で各種取り組みが明記されている。

国内はおろか世界でも珍しいといわれる、この地域の「優位性」や「価値」をどのように認識・評価しているのか。その上で、町内

**問**  
「オリンピックのまち」としての地方創生の在り方  
**答**  
「オリンピックのまち創生事業」がどう連携できるか研究を深めたい

外において、どのようなプロモーションや、意識の醸成をしていくのか。単なるスポーツの普及や推進等に留まらない「まちづくり全般における戦略的な事業」を構築していく必要があると考え、以下の点について伺う。

- (1)「オリンピックのまち」として、オリンピック・パラリンピック精神に基づいた取り組みは。
- (2)交流人口の拡大に向けた取り組みは。
- (3)基幹産業の農業をはじめとした産業界との連携によるスポーツツーリズムやスポーツコミッションに向けた動きは。
- (4)学校教育との連携は。

**教育長**

(1)過去は、福島選手による陸上や桑井選手によるラグビー、篠原雅人さんによるスピードスケートなど「オリンピック実践教室」、山本選手とのサイクリングイベントを実施しており、今後も本町出身のオリンピックが学校を訪問する「オリンピック学校訪問事業」

に取り組みたい。  
また、共生社会の実現につながるようボッチャや車いすラグビーなどの障がい者スポーツの体験会などを考えている。

- (2)幕別町スポーツ合宿誘致実行委員会などと連携を図りながら、本町スポーツ施設の優位性や温泉などの観光資源をPRするなど、継続したスポーツ合宿や大会誘致を進めるとともに、官民連携による歓迎ムードの創出や地域に密着した交流活動等を通じて、スポーツ交流人口の拡大に取り組む。
- (3)民間企業や観光物産協会等と連携し、運動や食生活を通じた健康増進をテーマとしたスポーツ体験イベントの開催準備をしている。

「プラス8プロジェクト」を通じ、パークゴルフ体験を受け入れし、町内の宿泊施設や飲食店の情報を提供している。  
スポーツコミッションの取組については、幕別町スポーツ合宿誘致実行委員会や町内のスポーツク

ラブ、体育団体、商工会、観光物産協会などから意見をもらい、その可能性について研究していきたい。  
(4)オリンピックの学校訪問事業等を活用しながら町の特色も含めて、学習をしていけると思っている。  
また、高木姉妹のことが教科書に載っていることで、子どもたちが理解を深めていくことに愛着を持っていただけたらと思っている。



▲リオ五輪出場桑井亜乃さんによるラグビー指導

**【解説】**

「スポーツツーリズム」とは、スポーツを見に行くための旅行および周辺観光やスポーツを支える人々との交流等スポーツに関する旅行のこと。

「スポーツコミッション」とは、地域外から参加者を呼び込む「地域スポーツ大会・イベントの開催」、大規模な「スポーツ大会の誘致」、プロチームや大学などの「スポーツ合宿の誘致」、「スポーツツーリズム」、地域住民向けの「地域スポーツクラブの運営」、「健康増進・地域交流イベントの開催」などの取組を通じてまちづくりや地域活性化を推進する組織のこと。